
三人揃えば平気なの？

f j 野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人揃えば平氣なの？

【Zコード】

Z2867BA

【作者名】

f_j野

【あらすじ】

とある馬鹿な三人が
Fate/Zeroの世界觀を
爆発させません。嘘だけど

自己紹介

立花 春日

(タチバナ カスガ)

15歳の女の子。

180近い身長なのが
かなりの傷になつていて
一目見て男子と言われると
タックルを食らわせて来る
んだけれど、それが凄い
破壊力なんだよ。

ショートに一房だけ長い
髪の毛がね
トレードマークだよ。

秋葉 夏

(アキバ ナツ)

15歳の女の子。

155で身長が止まって
カルシウムと寝言で
言つほど傷を負つて
チビつて言うと田潰しを
するよ、威力が高いよ。
ショートカットに前髪を

上げないと貞子と
呼ばれるよ

奏光
(カナデ ヒカリ)

15歳の女の子だよ。
160の身長に不満を
抱く腹黒な子だよ
ボニー・テールを王道と
ツインテールを邪道と
謎な定理を持つ
眼鏡ちゃんだよ。
怒ると般若様が降臨するよ
とても怖いよ

んにゃ、三人は
オリジナルで作りました。
頑張った。
ギャグが高いかも。
余談に三人は
同じ高校だよ。

冬木市にある遠坂邸
そこには、居候である
三人の馬鹿がいた
もう、誰にも止められない
馬鹿、馬鹿が！

「聖敗戦争つてなんだぬ、
はなはな？」

今、はなはなこと立花春日に
お馬鹿なクエスチョンを
出したのは秋葉 夏。
学校でも担任を恼ます馬鹿
である。

「戦争つて重火器ばんばん
勝ち抜き大会やろ、光？」

御丁寧とは言いがたいが
今、夏に返答をしたのは
春日である。
かなり怖い返答が
返ってきた。

彼女は、自分を馬鹿とは
認めないお馬鹿様である。

「違う、聖杯、聖杯。

願望機と呼ばれてて、

聖杯の導きにより

令呪を貰つた魔術師による

死闘。

たつた一人の願いしか
叶えないケチ機械。」

聖敗を聖杯と直し、

願望機と説明したのは良い
だが、その願望機とケチと
彼女が最後のお馬鹿様。
無自覚馬鹿である。

一番質が悪いのである。

言つ。

「へー、それを魔術師が
競うんだぬ！ぬはははーい」

やつと理解したらしい。

「でさ、話は変わつてさ
なんでぐるんぐるん
してるん？」

「言峰綺礼つて人可哀想」

「親父どもに困まれて
ぬははははは！」

三人は、二階の柵から

見下ろしていた

その頃下では

あの馬鹿達

頭を抱える遠坂家、当主の時臣。

「凄い人達ですね。」

真顔で聞く言峰綺礼が
いた。

(ぬはは！話終わったかぬ)
(時田一・暇や、暇、暇、暇)
(滑稽だったぞ、馬鹿田。)
(君達は、何がしたいの)
(((時田弄りー)))
(弟子ではなきやうですね)

02 召喚

ついに遠坂邸で召喚の儀式が行われた。

時臣に届いたのは

蛇の脱皮の化石

「 来れ、天秤の守り手よ」
時臣の声がドア越しに
聞こえる。

「 儀式始まつたぬん。」

「 なんのサー・ヴァントが
来るんやろか?」

「 アサシンは、綺礼だもんね」

皆で想像中

：

「 夏は、ランサーだぬん

「 ウチは、アーチャーやな

「 私は、キャスター」

皆違う回答。

「皿はどうしてそれを選んだんだ？」

「そこにあつた魔導書を引き千切つて何がいいか丁度良い場所にペンがあつたから田を隠して選んだぬーん」

「私は、馬鹿田の性格を考えに考え抜き、娘を桜ちゃんを売つた奴なら此れが来ると」

「へえ、そうなん。
私は、なんかそんな感じがしたからやなあ」

「君達。何時の間にそんなことをしてたの。」

「「「あ、おかえり馬鹿田」」」

「君達。もっとましな歓迎の仕方はないの?
そして夏、光は後でたつぶつと説教だ」

召喚も終わつたのであつ
時臣が召喚していた

部屋から出ていた。

「つるせんじよ、馬鹿臣
召喚したサーヴァントの
位置は？キヤスターなら
ざまあみろ馬一鹿つて
言つてやるからや。」

「やつきからなんだねん。
金色の粉が邪魔だねん！」

時臣は待つてましたと
言わんばかりに田を輝かせた

「我々が儀式により
召喚をしたサーヴァントは
古代最古の王だ。
我々の勝利だ！
そして位はアーチャーだ
残念だつたな。」

「当たつたやん！
やつたわーー（^—^）／

「惜しかつたぬーん

「馬鹿臣の癖に

光は、悔しそう

夏は、此れから始まる
説教に

春日は、当たつた嬉しさで
色々な反応をしていたが
3人は一斉に固まる」とと
なる。

「早速仕事だ。

英雄王の世話を頼みたい
退屈させないようにな」

「「「え 嫌」」

「ならば説教だ。今回は
綺礼からのだな。」

「「「丁重にお預かりする」」

かくして、3人は無事
英雄王の世話をすることと
なった。

(この我が空氣だと)
(申し訳御座いません、
英雄王) グリグリ
(痛い、こめかみ痛いつ !)
(あほ臣、痛いぬーん ! !)
(おもろいわ !)

03 初めまして、英雄王！

心配だから偵察をしてくれ
「我がマスターが
言つていたから偵察を
してい るのですが
英雄王、ギルガメッシュに
早速会つと

「 なんや、この金ピカ」

「私に言われても 困る」

「お兄さんが粉を
撒き散らしていたんだねん」

会つてそうそう
失礼な態度を取りました。
彼女等は、
逝きたいようです

ハサンの記録より抜粋

「 我は、古代最古の英雄、
ギルガメッシュである。」

「 ギルガメッシュって
デニッシュみたいな
名前だねつ むぐうつ
「

「黙つとき！死にたいんか
逝きたいんか！？」

早速、馬鹿丸出し。
オロオロしています。
英雄王のツボに
入つたようですね。
爆笑しています。

「貴様等のような雑種
実に我の寵愛を ぶはつ」

腹を抱えて

笑いだした英雄王。

早速気に入つたようです。
死なれなくて良かつたです

「そのメソポタミアって
とこの王だつたぬん」

「その威圧感の意味が
解つた気がしたわ」

「ふーん、長い名前だね」

「貴様等、面白い！
名を呼ぶことを許そう」

「わーい、ギルギルだぬん」

「普通にギルガメッシュュやわ

「ギルガメッシュュって呼ぶ」

気に入られると
早いのですね、ふむ。
夏さんの馬鹿ぶりには
英雄王も珍しいものを見る
目付きでした。

「暇だからUNOで
遊ぶねん！」

「ほお、偉いぞ雑種！」

「負けたらえげつない
罰ゲーム付きやーー！」

「負けるものか！」

えげつない？

一体どんな罰ゲーム
なのでしょうか？

恥ずかしながらハサンめは
気になります。

「ギルギル、16枚カード

引くんだねん」

「折角1枚になったのに、

春日、夏、光！貴様等！」

「王様も弱いやん！ ははは

「いけない、春日があがる」

「わせるか、雑種！」

白熱しているようです。
あの英雄王もカードには
弱いみたいですね。
それにして、ゲーム
となるとあの3人は強い。

「ふはははは！ 勝つたぞ！」

「勝つたぬ〜ん！」

「春日、残念ね。」

「マジ無いわー！ 儲ゲーム
なんやの！」

「間桐さん家の蟲が入った
箱に手入れるねん」

「え！？」

「 残念だつたな春日。」

「 蟻に食われる。うえ。」

私も嫌です。

夏は、何を考えているのか
解りません。

ある意味それ何処から
仕入れたのですか？
蟲藏にあるはずですが

（嫌や！）

（ぬんぬん）

ズボッ

（あ、あ、あ、！？）

（雑種の考えることは
恐ろしい）

（夏は、馬鹿だけど
ゲームは天才なんだ）

（ えげつないな）

（綺礼様、彼女が怖いです）

「買い物に行つてきて
くれないか。」

この時田の一言から

立花 春日の一日は始まった

「実は、王が鍋が食べたい
と言つてな、食材を
買つてきて欲しいんだよ」

「何で、私だけやねん。
夏や光もあるやんかー！」

「夏は部屋から出てこないし
光に関しては嫌の一言でな」

「つまり、余った最後、か

「そう言つことだ。
宜しく頼むよ。」

つてな訳でスーパーに
いる訳だが
何で、セイバー陣営が
呑気に買い物してるん?

「アイリストマーケット、

お肉が食べたいです！

後、この松坂牛、ヒレ肉に

卷之三十一

「あらあら、良く食べるわね
セイバーったら

「まだ、食べ足りません、
戦に備えて もももも」

「セイバー！ 試食品は逃げていかないわよーーー！」

なんか、平和やな。
さて、肉も買わなあかんか
嫌でも会つてまうわ
んー、でもどないしよ

「もももももん！」

ちらちらと此方を見ますね
まさか、ここのお肉を…！」

「へ？！違う、違うんや！」

其処にあるお肉を一
取りに行こうと思てな！」

なんか、苦し紛れの言い訳
みたいやな

相手は、騎士王やし
私、死んだ、フラグ立つた

「あら、セイバー 私達
邪魔だつたみたいよ？」

あれり？

「あ、失礼しました。
此れですか？アメリカ産の
198円のお肉。」

「あ、それやーうんうん、
ありがとー！助かつたわ」「
私の命も。

「さて、そろそろお会計ね
お財布 あ。」

「どうしましたか、
アイリスファイール？」

ん、何が起きたんやろ?
乗り掛かつた船や、
見に行こか。心配やし

「お財布忘れちゃつた、
えへへへ」

「アイリスフイール！？」

我慢できなくつて。

「どうなにするん？」

「「あ。」「

「すみません、
助かりました」

「本当に」「免なさいね
いつか、返すわ！」

「ええんよ。馬鹿臣の
お金やし！」

奢りました。

仕方無いじやないか。
可哀想だつたんだもの
しかも、道のりも一緒に
私の方が近いみたいやけど

「本当にありがと」

「「」迷惑をかけました」

「いいんよ、あ 着いた」

時間がたつのは早いもの
あつところが聞やつたもの。

「ほな、また～」

「またねー！」

「お金はこつか返します

また、会えると良いなあ
うんう。

（アイリスフィール！）

（何、セイバー？）

（彼女が入つて行つた家
遠坂です！）

（え？！令呪無かつたわよ！？）

やばいねん。

なんで、ランサーに

担がれているねーーん！

何で、何でさああああ！

蟻ん子の行列を凝視してて
全く気配なんて知らなかつた

けどねん(・・・)

俵みみたいに担ぐのは

吃驚だぬ

しかもここ何処よ

なんか石だらけ、瓦礫

ぬぬぬぬぬ！

なんか、電波バリ3だぬ

「此れが遠坂時臣の家に
居たのか、ランサー？」

「はい、我が主。蟻を
見てました」

「蟻を 何故だ。」

「わ、解りません」

捕まつたのは、

ケイネス率いるランサー陣営

遠坂時臣の事をもつと詳しく
知りたいらしいので
夏をつれてきたらしい

「さあ、小娘

遠坂時臣について教える

「ぬーん。娘売った酷い
ダディだぬ！後は
余裕ぶつてるアル中！」

「「はい？」

「サーヴァントにも
雑種！て言われてて
ダサいステッツ来てて
偉そうなのに、弱くて
口リコンでー弟子より
弱くてぬーん(・・・)」

「 我が主。

これ以上聞いても、
無駄な気がするのですが」

「う、うむ。

私もそう思えた所だ。」

「それに、ボツチだぬー
可哀想な人だー！」

凛ちゃんつて娘の写真見て

凛、お父さんは会いたい
だなんて独り言を言つて
とても気持ち悪かつたねん」

「い、いじこれ以上聞くと
その遠坂時臣が可哀想に
聞こえます、主よ」

「そ、そそそうだな。
もう、い、いこから」

「それにサーヴァント見て
我々の勝利だ！なんて
ふざけたこと言つてたねん
まさに馬鹿臣だったぬー！」

「 主よ」

「もう、お前（夏）帰れ」

（ぢー行つてたんや！？）
(ランサー陣営とこねん)
(何聞かれたの？)
(馬鹿臣について！
だからじんじょーほー
わうえことやうをしたぬ

（　　と申していました

(そ う か)
(綺 礼 様)

06 奏 光とライダー陣

しまつた ああ 足が
足が動かないよおお

うがあああああ
奏 光の不覚！
まさか玄関までおよそ
850mの地点で
転ぶなんて

足が、ヒリヒリして

動かないよー

誰でもいい 良いから！
私をあの暗い家に帰らせて
下さいー お願い

ちらちらと通りかかる
人達にイライラします。
助ける、馬鹿野郎共め！
私の膝 感覚がないよ
ひやああああ

「ん、なんだ。大地になんぞ
寝そべりおつて！
何だ、どうしたのだ。
余に言つてみるがよいぞ！
この征服王イスカンダルに」

「何、自分の真名を赤の他人に言つてやがりますかこの馬鹿わあ！」

「ん？私の周りが暗いな
え、誰、ひょろんモヤシ
え、誰だデカブツ。

「誰だ、デカいオツサン。
と、ガリガリモヤシ。」

いけない、つい本音が

「お前、もう一寸で足に
小さな石が一杯入つて
取れなくなつてしまつてた
じゃないか！この馬鹿が！」

「余が通つて良かつたな
小娘。」

「いや、助かりました。
後、家まで運んで下さると
もつと助かる！」

彼らは、聖杯戦争で
三大騎士クラスに零れた
ライダー陣営らしい。
いや、助かつた。彼らは、今の私に

天使に見える

「なんだ、何処だ？」

余達が送つてやる「」

ゴツいのがいるがな

「はああああ？！お前つ、
今日は作戦会議だつへぶつ」

「小さき小娘を助けるのも
王の器として計れるのだぞ」

「 ん 直ぐに帰る
お前送つていつたら直ぐ
帰るからなーーー」

お、よしあ、
帰れるーわーい！

「で、何処だよ。
分からないと運べないだろ」

「あそこ。 850 m先の
氣味悪いお家ーーー」

「 」

「え、ちよ！」

置いていかないでよー。

「ちょっとー」

「早く帰つて作戦会議だ
小僧。」

「今まで潰した時間
取り返すからな！」

なんだろう。

この不幸

絶望したつ！！

（あ、いたいた）

（遅いぬん！何、地べたに
求婚してるんだぬ？）

（歩けないんだ、ばーか）

（でも、足。）

治されてるやん、運んで

貰えなかつたん？）

（まさか、帰られたりして
とかだつたりぬーい！）

（ そのまさかだ）

「でも、クー・フーリンがね
とっても格好良いのよ！
うん、あれでさ、ご飯三杯は
いける！…うん！」

私達が思ったのは

((((ハイテンション)))

お隣の叔母さんは、
凄く明るい性格だ。
名前は、森下 優希さん
年齢は、永遠の17歳
夢は、ケルト神話にでる
クー・フーリンと
結婚をしたいっ！ と
語っていた。

たまに会うと熱弁が
繰り広げられる
美人なのにその性格で
お見合いを断られた回数
なんと6回。
なんとも残念な美人さんだと、
私たちちは思う

「でも、私はその世界に

行つて結婚したいのよ。

分かる? ねえ、聞いてるの

春日、夏、光つ!

「はいはい、聞いてる
またトリップーとか
んな下らないことを
しょーもない婆さんやな」

「タイムマシン作るかぬ?
でも脳外科に行つてきて
異常がなければ作るぬん
じやなきや、大変だぬ
妄想に花が膨らみ」

「いつか爆発して終わりー
とかさ、叔母さんなら
有り得るつて!」

「ここの、糞餓鬼どもー!
お姉さんは永遠の17歳
アイドルなんだから!」

「松田聖子かなんかやろか」

「痛いし可哀想だぬん

「現実みたらー? ? ?」

「ぐあつ 痛いところを

付いてくる糞餓鬼どもめ！」

数日後

「ランサーを見たよおお
ひやはああああああ！」

隣の叔母さん、狂乱中

「ディルディルだぬん」

「あー、今回のランサー
か。」

「飛び回りまくりやんか、
あのままじやスピンして
床から滑つて落ちるわー」

「でも、クー・フーリンじゃ
無いから愛はないわ。」
本当に残念 チツ」

「「「舌打ちした！？」」

(クー・フーリンよオー！
舞い降りろオオオオオ！
アチャアアアアアアア！)
(朝から五月蠅いやんか)

(ぬ、ぬ、ぬ、ぬ)
(アーッ!?)

(五月蠅いし)

寝れないじゃないか

(おい、

雑種!

隣が五月蠅いぞ!!!

バビつていいか?!

(王、そのパジャマセツトは

何ですか。それとバビる

つて え!?)

(アサシン み みせん)

(あ、あ、!

耳がああ

(耳が)

(アサシン死亡)

閑話 テスト結果

実は、居候の学校は
冬木高校です。
どの高校も単位は最低限
必要な訳だが

ここは、応接室。

椅子と机だけの質素な部屋
そこに学校の担任の先生
赤いスーツを着たこの場に
相応しくない男

「えっと 遠坂

馬鹿臣さん？」

「時臣です」

「あ 彼女達がそう言つので
それが名前かと
あ、お話があつてここに
来て貰つたのですが」

彼女達は、学校生活面又は
勉学面、出席日数諸々が
足りないので担任の
先生から電話が来て
時臣が来たのだ。

「あの馬鹿娘達が
で、先生。あの子等が
頑なに見せない
テストコピーを見せて
ください」

「あ はい。此れなんですが
点数諸々酷いですよ
私も泣きたいですもん」

机に置かれたテストを見て
絶句した。

秋葉 夏	立花 春日
数学 98点	数学 10点
科学 82点	科学 7点
物理 99点	物理 13点
現代国語 24点	現代国語 98点
古典国語 6点	古典国語 94点
英語 100点	英語 100点
社会歴史 2点	社会歴史 2点
社会地理 21点	社会地理 21点
社会公民 34点	社会公民 34点

「いるんですが」

「夏ちゃんは授業の時
爆発させたり紙飛行機
飛ばしたり」

「 そうですか。」

「春田ちゃんは いきなり
ぶち切れたり 男子が
デカブツ！と言つたから
でしようが

光ちゃんはテストの欄に
ポニー テール王道！
ツインテール邪道！
と書いていたり

時臣さん？」

「 分かりました
家で説教します。」

（ん！時臣やんか ぎや！）
（ぬ、！？ぬ、ーん！？）
（髪引っ張るな！痛い痛い！）

（馬鹿娘、担任の先生が
君らのテストを見させて
くれたよ。）

(なつ！？ なんやて！)
(点数バレてるぬん！？)
(は！？)

「やはつ、戦い見物は倉庫の上からやなー！」

「ぬーーー！」

「んー、夜の弁当も
おいひいね ももももも」

「ふん、余興には丁度良い」

ここは、冬木の港町にある倉庫。その倉庫の上には本編の主人公の馬鹿娘達とAU王ギルガメッシュがいた。何故か弁当持参で。只今、ランサーとセイバー戦つております

「倉庫の上から見ると
サーヴァントで在るうが
『ハリ潤のようやんかー』

「ラピオタの○スカだぬん

「ム○カだねえ
もつと本格的こそあ

ふはははははは！
人がゴミのようだ！って

「ふはあつ」

「光がやるとさ リアルに
聞こえるんやけど」

「怖いねん！」

「糞臣になら本気で言える
自信がマジ1000%ある
そして、ギル君。
ワインを吐くな！」

呑気に三大騎士クラスの
戦いの最中、お弁当を
食べる人は居ないだろ？
こいつらを除いて。

「人がゴミ ふははははは
まさにその通りだ
だが、貴様が言うと
この我でも背筋が凍るぞ」

「え、 そんな怖い？」

「ぬんぬん！」

「怖いに決まつとるやん！

それに「王とは認めん！」「は！？」

「あ、あれはライダー！」

「ん？ 何だと。 気に食わん行つてくる。 我以外に王を名乗る不埒者めが」

「行つてらっしゃいぬーん
ギルギルの唐揚げいただき」「む！？ デカブツの唐揚げ
いただくぞ！」

「誰がデカブツや！」

「貴様 春日！ タックルは
止めるおおおおおお！」

「王を名乗るのは
天上天下唯我独尊、 我一人
だけだ。」

「お、 ビシッと決めとるやん
「今さつきまで唐揚げの
取り合いだぬん」

「んー、 そだねー」

只今、倉庫の上から降り
家政婦は見た状態の3人
下から夏、光、春日だ

「此れからどうなるので
しょうか、夏さん」

「ぬーん はなはなからの
バトンタッチで私がだが
ギルギル優勢かぬ？」

「うおー!? バーサーカー!
凄いもやもやんしてゐる

「どれだ、見せてやー..」

「ぬ、！？ 見たいぬんー！
邪魔だぬん！」

「どうあつ！ ヤバー、
コケるー..」

「此方来るな、馬鹿野郎が
あああああああああ
」

「ふきあわせつ

ドシヤアアア

下から夏、光、春日だ。

他のマスター や
サーヴァントもいきなりの
登場に驚いている

それと余談だか夏は下敷きである

(夏が死んだ!)

(え? !)

(ちーーん(死亡))

((((((なんか見たことある
こいつらを!)))))

(おい、下敷きに

なつているぞ、夏が)

(ギル君 助けてよ)

(何故我が?)

(ちょ、堪忍な! 夏!)

「あ、今晚和。お邪魔ね
しゃしたー、てへべる」

「三途の川に夏が！」

「おい、もう渡つてているよな
死んでいるよな」

「英雄王。助けてや」

「え、我の宝具にそんなの
あつたつけ？」

「バビればいいじゃん」

「んむ。鎧邪魔だな、オイ」

いきなり、シリアスマード
からのギャグ展開。
しかも、宝具ジャマーで
私服にチエングジした英雄王
こんなのが古代最古の
なのだろうか、と
周りにいるサーヴァント、
マスターは疑つた

「あ、あるやん！」

「の金ピカの入れ物ー」

「それは、蛇にやつた
不老不死の薬だ 春口。
あ、あつたぞー!!
緊急箱。」

「ここは、白と赤のお決まり
じゃなくてさ、金ピカに
しようよ。」

「其処に金とかかけたくない
これ我の本音。」

周りがポカソ、唖然と
している間にテキパキと
夏を治療している。

頭に包帯が巻き終えた頃

「じゃ、家に帰ろうか」

「我も帰ろう。興醒めだ。
貴様等がいいタイミングに
はいつてきたからな。」

「入りたくて入つてねーよ
馬鹿王。」

「む、この我が馬鹿だと。

有り得ん！家に帰つたら
学力てすと、とやらを
貴様等に布告してやるー

「「う、うん。」」

「あと夏を『テカブツ。
おんぶだ。』

「知つとるわ、ギル」

よつこいせ、と日本人特有
スキル発動。

夏は、気持ち良さそうに
眠つて いる。

「ふあああああ

眠いぞ、帰るぞ我は」

「深夜だもんねー」

「じゃ、TPOを弁えて
楽しくバンバン殺つて
下さいなつと

私を置いて行くなやーー

問題児 4人は、スタスターと
倉庫から帰つていつた。
倉庫に取り残された人と
英靈達は

（主よ。蟻の少女が
いました）
（ランサー。言づな
涙が出てくる）

（アイリスフィール
彼女にお金を返し忘れて
しまいました！）

（あ、セイバー！
追いかけなきや
財布忘れちゃった）

（アイリスフィールツ！？）

（余を「ゴツい」とか言つた
小娘が居たぞ、坊主？）
（850mだけなのに
助けを求めた奴な）

（あ、アイリの財布。舞弥）
（切嗣。マダムがオロオロ
していますが？）

（え？…どうじよう舞弥）

（届けて下さー）

（え、嫌だよ。僕、原作じゃ
こんなじやないし）

（知りません。）

（え、舞弥 代わりにとか
（嫌です）プツン

（無線切れちゃった。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2867ba/>

三人揃えば平気なの？

2012年1月14日21時54分発行